

▶ よりよい授業設計のために
～授業を作る上で必要なもの～

目次

目次

- 1-1 授業構成とは
 - 2 授業設計とは
 - 3 何故、授業設計が必要か
 - 4 授業設計の流れ
- 2-1 授業構成に必要なパラダイム
 - 2 客観主義と構成主義
 - 3 客観主義
 - 4 構成主義
 - 5 学習パラダイムを組み合わせた授業設計
- 3-1 教師の授業の技術
 - 2 発問
 - 3 話し合い
 - 4 板書
 - 5 机間巡視
- 4-1 現在の日本の児童生徒
 - 2 求められる授業は

まとめ



授業の構成要素とは

- 授業の構成要素⇒学習指導案、カリキュラム、指導計画、板書計画、教材、教具……

＝広義的

- 授業設計＝授業を実施する前にあらかじめ授業過程や学習指導の仕方を構想・設計すること

＝授業の構成要素



授業設計とは

▶ 授業設計：

- ① 単元などまとまりのある学習内容を数時間の授業に構成する、巨視的なもの
- ② 単元の一部を詳細化して一単位時間の授業案にする、微視的なもの

両方に着目して授業を作成することが必要！



授業設計の必要性

- ▶ 授業を児童に合わせた自由闊達なものにする上で、授業で押えなくてはならないポイントを逃さないようにするため。
- ▶ 長い目と見通し(巨視的な授業設計)によってトータルにバランスのとれた児童を確実に育てていくため。



授業設計の流れ

児童の実態を把握

学習指導要領で全体の目標や内容を確認

年間指導計画を作成

学習指導要領で目標や内容を分析・決定

学習指導案を作成

前後の授業と
の関係
(下位目標構
造)

レジュネスの
把握

教具・教材
の選定

板書計画

評価基準

授業を実践

授業を評価

授業
単位

授業構成に必要なパラダイム

授業設計の中で…

▶ 授業目標を設定⇒

教科の目標や学力構造・能力について分析する必要がある

▶ 授業過程を構成⇒

学習内容に系統性を見たせ、関連付ける必要がある

授業設計を行う際に、学習内容の関連を構造的に把握しておく必要がある

「客観的な外在的構造化」→「客観主義」

「主体的な内容構造化」→「構成主義」

客観主義と構成主義

★知識やスキルの
自ら学び考える

習得

学習

これらを学習指導にどのように活かすか。

▶ 客観主義では…

◎ **習得** に重点を置く。

◎ 児童に適した目標を設定⇒分析した学習内容をどのように児童に伝えるか。

▶ 構成主義では…

◎ **学習** に重点を置く。

◎ 児童の状況や関心・意欲、他者との相互作用などを契機して
実体験に則した学習活動をする。

客観主義①

教育目標のタキソノミー

- ▶ ブルーム，B.Sが考案。
- ▶ 教育目標を以下のように分類する方法。

認知的領域

「知識」
「理解」
「応用」
「分析」
「総合」「評価」

情意的領域

精神運動的領域

客観主義②

学習内容の階層構造化

- ▶ R.Mガニエが考案。
- ▶ 「標準的動詞」を用いて学習内容を分類する方法。

『知的技能』

特定の応用場面での
知的操作を表示

「弁別する」「確認する」「分類する」「例証する」「生成する」

『認知的方略』

効果的に問題解決をする
能力

「創造する」

『言語情報』

情報伝達や表現

「述べる」

『態度』

ある種の事象に対する行
為を選択する

「選択する」

『運動技能』

数々の状況下でパフォー
マンスを行う

「実行する」

客観主義③

ISM教材構造分析

- ▶ 構造モデリング法を利用した。
 - ▶ 方法は以下である。
 - ①教材から学習内容を抽出し、その前後関係などの関連付けを行う。
 - ②関連付けたデータをマトリックスにして表し、コンピュータによる関連構造図を作成する。
 - ③構造図を見直し、学習内容を追加・変更・修正して全体構造図を決定する。
- ※チャート図を利用することで、学習内容の順序性や系統性が考えやすくなる。

構成主義

- ▶ 学習者の認識過程に基づく方法:

「情報の入力」「入力情報の理解・納得」「学習」「記憶」「習熟」「転移」「創造的思考」の8つの学習者が遭遇する場面をステップ化し、授業設計をする。

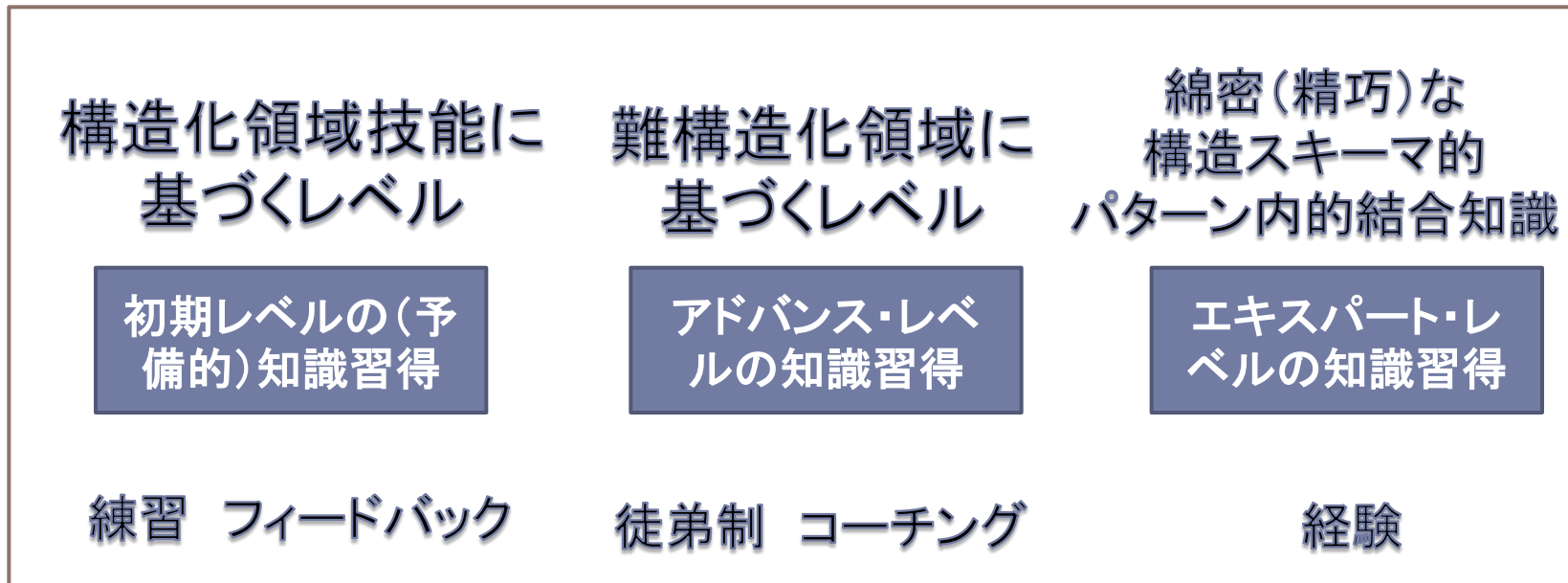
- ▶ 学習者の思考活動に基づく方法:

学習者の思考活動を手掛かりにして要因の順序性や因果関係に基づき、学習指導モデルを構想する。



学習パラダイムを組み合わせた授業設計

- ▶ 客観主義と構成主義を折衷したもの。



(新 技術科教育総論 p86より)

教師の授業の技術

- ▶ 学習内容の構造化をする際の様々な形のパラダイムを説明した。
- ▶ 授業の構成要素は、年間計画や学習内容・目標を分析し、より生徒に適したものを選ぶことだけではない。
- ▶ 生徒に直接関係するのは、1回ごとの授業の流れや板書計画、教材・教具、教師の話し方などの授業技術である。



発問

- ▶ 授業はじめて、生徒が学習目的をとらえられるような発問をする。
- ▶ 発問の内容は具体的にする。

例)

× 「考えをたくさん出しましょう」○ 「考えを3つ出しましょう」

※たくさん考えを出すことが目的ではない。その考えを深めることが大切。

- ▶ 生徒自身が自分の考えを持つという時に、不安を取り除く。
 - ▶ 授業の流れを意識した発問の仕方ではなく、生徒との対話となるように発問をする。
-

話し合い

- ▶ 全員が参加するように支援する。
 - ▶ 生徒の疑問をクラス全員で考えるようにする。
 - ▶ 生徒の考えを対等に扱う。
- ※そのために、教師は生徒がどのような考え方でその答えを導いたのか理解する必要がある。
- ▶ 考えの違いがあることを生徒に理解させ、発言をしやすい環境を作る。
 - ▶ 生徒のつぶやきや動作に注目し、挙手や発言が自ら進んでできない生徒の支援をする。
-



板書

◎板書は、授業一時間の記録である。

- ▶ 授業のねらいを板書し、生徒がいつでも何を目標に学習している・考えているかが確認できるようにする。
 - ▶ 教師が一方的に板書をするのではなく、生徒の考えを活かした板書にする。
 - ▶ 重要な所はどこなのかわかりやすい、見やすい板書を心がける。
 - ▶ 字の書き順・間違い等に気をつける。
-



机間巡視

- ▶ 学習状況を把握する。
 - ▶ 一人一人の生徒に合わせたアドバイスができるように、あらかじめ生徒の傾向からつまずき等を予測しておく。
 - ▶ 学習の進行状況に合わせて、指導をする。
 - ▶ 励ましの声をかけ、生徒の学習意欲を向上させる。
 - ▶ 生徒の考えを受け入れながら、ねらいにたどり着けるように助言をする。
- ※助言しすぎないようにする。
-



現在の日本の児童生徒

- ▶ OECD(経済協力開発機構)のPISA調査などの調査からわかった課題は以下である。(学習指導要領 総説より)
 - ①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題
 - ②読解力で成績分布の分散が拡大しており、その背景には過程での学習活動などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題
 - ③自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題

⇒それでは、どのような授業を目指せばよいのだろうか？



求められる授業は

- ▶ 文部科学省ではこのように記されている。(新学習指導要領改定の基本的な考え方より)

○学力の重要な3つの要素を育成します

- 基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせます
- 知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力をはぐくみます
- 学習に取り組む意欲を養います



基礎的・基本的な知識と技能を教師が教え、生徒がそれら
を活用して自ら考え、判断し、表現することで学習をする

。

まとめ

- ▶ 授業設計は一つの授業だけで考えるのではなく、前後の授業との関係性など全体を考える巨視的な視点です。
 - ▶ 教師は生徒を良く理解し、生徒に適切な学習内容や目標、教授方法を分析・選択する必要がある。
 - ▶ 教師が基礎的・基本的な知識・技能を教え、それらを生徒が活かし自ら考え学習する、授業を目指す。
 - ▶ 一つ一つの授業は積み重ねであり、それらが生徒を構成する。目標を明確にし、生徒が「わかる」授業を教師は提供しなければならない。
-



文献

- ▶ 文部科学省
- ▶ 「新しい授業の創り方講座7 授業改革ハンドブック」
- ▶ 「形成的評価による授業設計マニュアル」
- ▶ 「新 技術科教育総論」

